

令和8年度「小代っ子」

香美町立小代小学校
R8.9.9 No.9

◆ふるさとに学び 誇りと夢をもち
心あたたかく たくましい 小代っ子の育成◆

2学期スタート 実りの秋へ一歩ずつ!

4 5 日間の長い夏休みを終え、2学期が始まりました。子どもたちは、大きな事故やけがなどもなく、頑張ったたくさんの宿題や成果物を抱え元気に登校してくれました。

2学期は、1年間で最も長い学期です。山の木々が美しく色づき、苦労して育てた畑や田んぼの作物が実を結ぶ豊かな秋のように、子どもたち一人一人の頑張りと経験が一つ一つ新しい実を結ぶ2学期にしてほしいと思います。

『始業式のあいさつより』

□多くの方々の支え

○さつまいも畑のお世話(いこいの里にある畑)

社会福祉協議会、老人会のみなさんが春に植えたさつまいもが元気に育つように毎日暑い中、水やりをしたり、畑が動物に荒らされないよう電気柵を設置したりしてくださいました。芋のつるや葉も元気に伸びています!



電気柵とモグラ対策を施していただいた畑

○地区水泳の安全管理

地区水泳ではPTAのみなさんが子どもたちが安全にのびのび泳げるよう、お忙しい中しっかりと見守ってくださいました。また、熱中症にならないよう常に暑さ指数に気を配り、声掛けしてくださいました。

○式典・案内看板をいただきました

現在、香住小学校でお勤めされている安田雅司前校長先生からは、入学式・卒業式で使うステージ看板のほか、さまざまな行事を飾る華やかで真新しい案内看板を寄贈してくださいました。児童にお披露目の後、早速、4日(金)から開催している「夏休み作品展」で使わせていただいています。

○グラウンドの草刈り・校舎の窓ふき

夏休みの終わり(8/23)には、PTAのみなさんが奉仕作業を行い、グラウンドの草刈りや校舎の窓ふきのほか、通学路のストップマークをきれいに塗り直してくださいました。3・4・5・6年生のみなさんも暑い中、一生懸命に作業してくれました。ありがとう!



安田前校長先生から寄贈の華やかな看板

□多くの自然災害から考えること

この夏には、熊本での大きな地震や、千葉県をはじめ各地で大雨による災害があり、尊い命が失われました。亡くなられた方々のことを思い、心からご冥福をお祈りします。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。遠い場所で起きた出来事として終わらせることなく「もし、自分たちの地域で起きたら」と自分のこととして考え、今の自分にできることを大切にしましょう。

○普段から避難の仕方を確かめておくこと

○先生や周りの人の話をよく聞き、落ち着いて行動すること

○自分の命を守るために真剣に学ぶこと ○困っている人に心を寄せること

○水や食べ物を大切にすること ○身近な人と助け合うこと

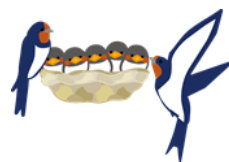


□もしも、困った時には…

学校生活は、何もかもが自分の思いどおりにうまくいくことばかりではなく、勉強や友達との関係に悩んだり、失敗したりすることもあるでしょう。また、学校に来ること自体が苦しく感じられたりすることもあるかもしれません。そんなときは、一人で抱え込まずに先生や友達、家族など、大切に思っている人に今の気持ちを話してください。

また、頑張るということは、一人で無理をし続けることではありません。立ち止まること、誰かに気持ちを話すこと、誰かの力を借りることも自分を大切に、前へ進むための立派な一歩であることなどを話しました。

見えるところでも見えないところでも多くの方々に支えられていた夏休み。
大きな自然災害に命の尊さを感じ、今の自分にできることを考えさせられた夏休み。
うまくいかない時には、すぐに諦めるのではなく「どうすればよいだろう」と考え、
できそうなときには挑戦し、困った時には助けを求め、友だちが困っていたらそばに
寄り添い必要な力になる。そんな2学期を目指そうという話をしました。
今学期もそんな一つ一つの経験や学びを丁寧に見守り、支えることができればと
思います。保護者の皆さま、地域の皆さま、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



9月13日（日）スポーツフェスティバル！

1日（火）のオリエンテーションを皮切りにフェスティバル練習が始まっています。雨続きの天候となっていますが、児童は一生懸命練習に打ち込んでいます。当日は練習の成果が必ずや発揮されるものと思います。ご期待ください！そして応援よろしくお願いします。



留守対応電話を開始します



- 開始日 9月9日（水）より
- 留守応答対応時間 平日17:30～翌朝7:30まで
（土日は終日）詳しくは学校ホームページをご覧ください。

下校見守りにご協力ください！

低学年も2人以上の複数人数であれば、徒歩で下校します。日暮れの時間が早くなるこれからの季節、ご自宅の近辺で通学路を歩く児童を見守っていただければ幸いです。よろしくお願いします。

「思いの丈 ～日々のまなざし～」

「目指す子ども像」を共有していくこと

学校の教育目標や経営方針を定める際、まず一番に考えるのが目指す子ども（児童）像。「こんな子どもに育って欲しい。」その願いを実現するためにどのような学校を作るのか、（学校像）また、教師はどうあるべきか（教師像）を考え、具体的な目標や方針を定めていく。しかし、長く教職に携わる中で考えさせられることがある。それは、教師と保護者の皆さんとの間で、子どもの成長について重視する姿に違いが生まれることがあるということだ。

保護者の皆さんは「毎日楽しく通ってほしい」「つらい思いをしてほしくない」「自信をもってほしい」と今、目の前にいるわが子の安心や幸せを強く願っている。一方、教師は「自分で考えて行動してほしい」「失敗や困難を乗り越える力を身につけてほしい」「集団の中で他者と関わる力を育てたい」と将来の自立や社会性を見据えて関わっている。もちろん、保護者の皆さんも子どもの将来を願い、教師も子どもの今の安心や幸せを大切にしている。それでも、子どもを見る立場や時間軸の違いから、互いの思いに少しずれが生じることがある。

しかし、このような「差」は対立ではない。共通するのは、「子どもにも幸せに育ってほしい」という願いである。その原点に立ち返り、保護者の皆さんと学校が互いの願いや思いを伝え合い、理解し合うこと。その積み重ねが子どもたちのよりよい成長を支える力になると考える。「皆さんは、子どもたちにどのような大人に育って欲しいと願いますか」この秋、一人一人が豊かな実りを得られるよう努めることはもちろん、十年後、子どもたちがどのような大人に成長して欲しいのかという願いも、学校・保護者・地域の皆さんと共有し、これから子どもたちの成長のためにしっかりと力を合わせていきたい。